

# 金に対する中長期の見通しについて

2026年3月3日

ご参考資料

金の中長期的な見通しは、投資家の行動、中央銀行の動向、インフレおよび地政学リスク、さらには世界経済の成長といった要因が相互に作用し、総じて前向きであると考えられます。

需要の観点では、近年、金市場に対する資金流入が増加しており、価格を下支えしているとみられます。また、今後、金を組入れた分散投資への効果やリスクヘッジ機能に対する投資家の認識が一段と高まれば、さらなる資金流入が期待されます。特に、株式と債券の値動きの相関が高まる局面では、株式や債券と異なる値動きを示す傾向のある金の存在意義が相対的に高まっています。

中央銀行の動向も、金市場を支える重要な要素となっています。世界の中央銀行は長期にわたり金を純購入しており、近年は新興国を中心に相対的に需要が高まっています。価格の動向に左右されにくいと考えられる中央銀行からの需要は、金市場に構造的な下支えをもたらしているとみられます。

供給面では、金の鉱山生産は緩やかな増加に留まっていることなどから、供給増は限定的であり、需給は引き締まった状態

にあると考えられます。中央銀行からの需要が大幅に減少したり、リサイクル供給が急増したりしない限り、今後も需給環境が金価格を下支えすることが期待されます。

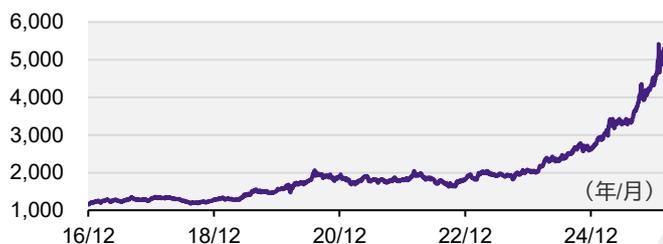
世界の債務総額は約348兆米ドルに達し、政府債務も過去最高水準にあります。こうした状況の下、通貨価値の低下や財政不安への懸念が生じる場合には、金はリスクヘッジの資産として相対的に魅力が高まる可能性があります。また、地政学リスクの高まりや、突発的な金融ショックといった不確実性の高い局面では、金は分散効果と資産保全機能を発揮してきました。

加えて、歴史的に見ると、金の長期的なパフォーマンスは、単にインフレに連動するというよりも、世界経済の拡大との連動が見られます。これは、金が消費財であると同時に、長期的な価値保存手段として機能していることを示しているものと思われます。世界経済の拡大に伴い、所得や資産の増加によって、宝飾品、投資、中央銀行といった幅広い需要につながり、金価格を長期的に下支えてきたとみられます。こうした点から、世界経済の成長が金にとって構造的な追い風であり、長期的なプラス材料であると考えられます。

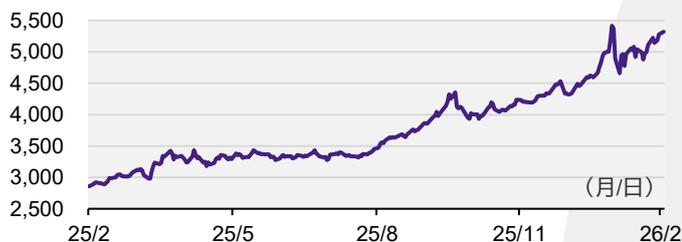
※上記はステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズのコメントを基に、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果等を保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

## 【金(スポット)価格の推移】

長期 2016年2月末～2026年3月2日 / 日次  
(米ドル/トロイオンス)



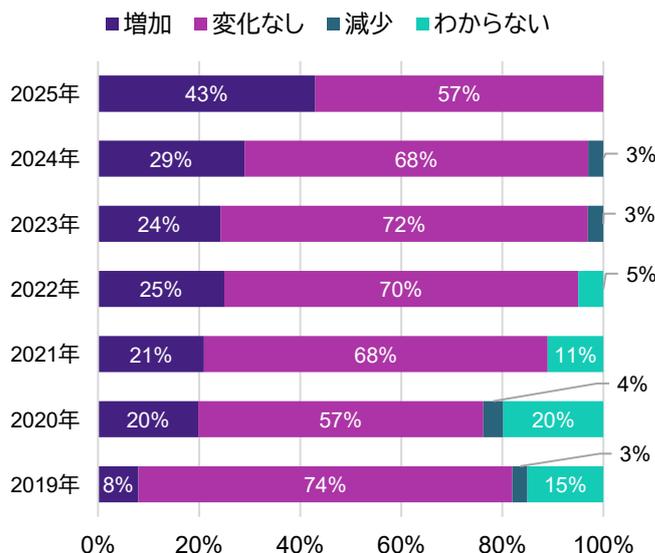
短期 2025年2月末～2026年3月2日 / 日次  
(米ドル/トロイオンス)



信頼できると判断した情報に基づき、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成

## 【中央銀行の金準備に関する調査結果】

Q. 自国の中央銀行の金準備は今後12か月間でどのように変化すると予想していますか？



出所:「中央銀行の金準備に関する調査 2025」(「ワールド ゴールド カウンシル 実施、You Gov, World Gold Council Perspectives on gold reserves | World Gold Council」)

※端数処理の関係で合計が100にならない場合があります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社